

## 「ウィーン物語」

180781084 杉山大輝

戦前ポーランドと関わり歴史上でも大きな役割を果たしたと言えるのが、オーストリアであり首都ウィーンである。ウィーンはドナウ川流域に位置し古くから商業の盛んな地域として発達しており、サルツブルク(塩の城)のように塩に因んだ地域がある。紀元前 100 年頃にローマ軍が駐屯地をつくりこの地をヴィンドボナと呼んだ。これがウィーンの起源である。このローマ人による支配が本格的なウィーンの始まりであり、その後ローマ帝国の勢力が弱まると、7 世紀になるとバイエルン族が支配者となりこのあたり一帯はオストマルクと呼ばれる。これがオーストリアの語源である。スラブ系やゲルマン系の民族が入り混じった土地となる。この地を治めていたバーベンベルク家が遷都したのがウィーンであった。ここから中心都市として発展していく。そしてその後台頭したのがスイス北東部ライン川の流域を発祥の地とし中世から 20 世紀初頭に至るまで主にスペイン、オーストリア、ハンガリー、ドイツなどヨーロッパで強大な勢力を誇った名門王家であるハプスブルク家によるウィーン支配がはじまった。世界の歴史において大きな関わりを持つこととなる。ヨーロッパの歴史においてなくては成立しえなかったといっても過言ではないほどと言われている。1356 年にはルドルフ 4 世によってウィーン大学の創建や、シュテファン大聖堂の建造などウィーンの都市機能を整備していった。そののちマクシミリアン 1 世は他のヨーロッパの王家と婚姻関係を結ぶことで大帝国の礎を築いた。彼は芸術家の保護など文化の発展にも貢献していた。つぎに台頭したカール 5 世は神聖ローマ帝国皇帝となり 37 年間にわたりドイツ、オーストリア、チェコ、イタリア北部オランダやベルギーにいたる広大な地域を支配しヨーロッパ最大の王家とした。またハプスブルク家はフランス、スペインにまで王家として君臨していた。このときのスペインは歴史上「太陽の沈まない国」と呼ばれ最も強大な力を持ち繁栄していたということである。このスペインは 80 年戦争やフランス・スペイン戦争や無敵艦隊の敗北によってヨーロッパにおける覇権を失うことになった。また神聖ローマ帝国もナポレオンの台頭によって解体され、第一次世界大戦での敗北による帝国内の独立なども重なりヨーロッパに 650 年もの間君臨していたハプスブルク帝国は崩壊しウィーンから姿を消すこととなった。この時代にデューラーやティツィアーノ、ルーベンス、ベラスケスといった代表的な画家と関わりを持っていた。これらの人物の絵画を収容した美術史博物館や先に述べた大学や大聖堂を含めた古代ローマ時代からの歴史やバロック時代の優れた建築技術などが評価され、ウィーン歴史地区として世界遺産に登録されている。

シュテファン大聖堂はもとはローマ人のつくった小さな教会であったが、巨人の入り口と二本の塔のみがロマネスク式として残されそこにゴシック式の教会をつなぐことで大聖堂となった。ウィーンの降雪量を考慮した急勾配な屋根がありそれは鮮やかな色タイルであり最も人の目を引くものである。外観はゴシック式、内部はバロック式とさまざまな様

式が加わったことでアンバランスな建築となってしまったがそこがまた魅力の一つである。元々は郊外にあったのだが都市の中心部となり、ウィーンのシンボルとなっている。ウィーンはバロック都市であり町はバロック式の建築にあふれている。語源はポルトガル語でゆがんだ真珠を意味すると言われている。そしてウィーンではモーツァルトやベートーヴェン、シューベルトといった有名な音楽家が多数活躍している。ウィーンは多民族が入り乱れる都市であったため東欧や西欧の様々な影響を受け文化が発展した。

ウィーンが主要都市として発展していくこととなったのはプリンツ・オイゲンによるオスマン・トルコの撃退である。これにより安定した時代を送ることとなりバロック建築の発展が目覚ましくなってくる。18世紀にはマリア・テリジァが近代国家の確立に努め芸術の発展にも努めた。19世紀半ばオーストリアの皇帝となったフランツ・ヨーゼフ1世は世界で最も美しい大通りとして知られるリング通りや市庁舎、歌劇場、大学、博物館銀行、集合住宅などを次々に建設し新しいウィーンをつくった。彼の在位中には皇太子の自殺や皇妃や弟が殺害されるなどの出来事があった。悲劇はこれだけにとどまらず甥であるフランツ・フェルディナントが暗殺された。これがサラエボ事件でありこの事件を発端として第一次世界大戦が始まることとなった。

そしてもっとも有名な人物はウィーンに現れ世界に大きな変化を与えたアドルフ・ヒトラーである。ヒトラーはウィーンの建築に大きく魅せられていたが、建築家になろうとして挫折したこと、美術学校の入試に幾度と挑戦したが受け入れられなかったことや青年時代の貧困な暮らしから次第にそれがウィーンへの憎悪へと変わっていったことが総統美術館の建築やナチス・ドイツを設立させるということへと繋がってしまった。そして戦後は連合国による分割統治が行われた。

かつてウィーンはヨーロッパの中心として栄え、神聖ローマ帝国の都として君臨し世界の歴史に大きな影響を与えてきたが、ナチス・ドイツや連合国の支配など数奇な運命を辿ったが現在オーストリアは永世中立国という地位を保っている。ウィーンは日本人にとってはあまりなじみのない都市であるがかつては世界の中心として存在し、様々な建築や美術などの文化で世界に大きな影響を及ぼしたそれがウィーンである。